

保育園での異文化体験エピソード



その19 母語教育、その後…



イラスト・うつろあきこ

ある日、年長児のクラスを訪ねたときのこと。あ ポルトガル語を母語とする園児が、ポルトガル語の話せる職員と、ポルトガル語のみですごしている状況を見つけました。

私は、「これは、かえってまずいのでは…」と感じました。

保育園にいる間はいいけれど、小学校に入ったら、とたんに困ることになる…。母語を大切にすると同時に、日本語の強化を意識しなければ、その子のためにならないと思いました。

保育園では、日本語が大体わかる程度でも、日々の生活に支障がありません。日本語をどの程度理解しているかも、それほど意識しないで小学校に送り出していましたが、少し意識的に学校での生活を想定して、日本語力をつける手助けをしていこうと思っています。

(ユリア／愛知県碧南市・第2へきなん保育園理事長)

「地球家族ネットワーク」へのお誘いとエピソードのお願い

保育は、世界中の人と仲よく生活できること（平和）を伝える役割があります。

そこで、国際交流や外国籍の子どもたちの保育について情報交換をしたい方は、「地球家族ネットワーク」に参加してみませんか？！

また、外国籍の子どもを受け入れて、心に残るエピソードがありましたら、ぜひお寄せください。

全私保連 保育国際交流運営委員会

TEL 03-3865-3880 / FAX 03-3865-3879

E-mail : ans@zenshihoren.or.jp